

# キ/コも通信

第71号

平成31年2月19日

発行責任者 武田浩文



2月16日の活動日には、10名のメンバーが集結。ヒラタケの植菌に心地よい汗を流しました。

スーパー等で「〇〇しめじ」として栽培しているのは、ヒラタケを瓶栽培したもので、風味や味の点では、原木栽培が大きく勝るとされています。

更に、ヒラタケは菌の繁殖力が強く、今秋から収穫できるのが特徴です。栽培も容易で、プランターに半分程度植え付けた状態でも、10月中旬ごろからボコボコ発生しますので、ベランダ栽培も可能なキノコです。今、キノコモクラブに入会頂きますと、漏れなくヒラタケの原木をプレゼントしま〜す(̄\_̄)-☆

## ～人口オーナス時代の里山活動～

日本が高度経済成長期であった1960年代は、高齢者1人を11.2人の現役世代が支えながら、生産性の向上と併せて労働人口が増加するなど、経済成長に向けたプラスのスパイラルが働く「人口ボーナス」と呼ばれる時代でした。

昨今の急激な少子化の進展は、人口構成に大きな変化をもたらし、2014年には高齢者1人を2.4人で支える状態となり、2060年には高齢者1人を現役世代1人で支える「肩車社会」を迎えるとされています。日本のGDPの国際比率やハイテク産業の貿易収支も低下するなど、かつての強みは力を弱め、国際競争力そのものも低下していますが、更に人口減少による国内マーケットの縮小は、投資先としての魅力を低下させ、労働人口不足を賄うための長時間労働が少子化を更に進行させると懸念されています。人口急減・超高齢化社会が及ぼす経済へのマイナスの負荷が、需要面・供給面の両面で働き、マイナスの相乗効果を発揮して起こる経済縮小のスパイラルを「人口オーナス」と言います。

木津川市では、合併以降約10,500人、率にして16%も人口が増加している点のみが注目されていますが、生産年齢人口の増加率は1%(651人)に留まっている一方で、高齢人口は7,500人以上、率にして68%も増加しており、行財政改革を進めても財政が好転しない大きな要因となっています。

よって、市の施策も拡大基調ではなく、人口オーナス時代に適応した集中と選択、むしろ縮小していくことが求められているのではないのでしょうか。[地域間競争の視点からは、成長に向けた強かな戦略が必須]

現在、国においては、子育て支援や働き方改革、労働力不足を補うための各種取り組みが進められていますが、経済成長の持続性を確保するためには、生産性の向上や人的交流を基軸としたイノベーションの創造、新たなマーケットの開発が重要とされています。

キノコモクラブの活動に置き換えますと、参加人数に適應した作業を選択しつつ、生産性の向上には里山整備に必要な資機材の充実を、イノベーションの創出に向けては、多くの皆様の参画が必要になると考えられますので、皆様の積極的な参加をお待ちしてしま〜す(̄\_̄)-☆

# ～今回も頑張りましたよ～



ヒラタケのホダギ  
が軽トラック2台分。  
秋に一斉に発生す  
ると考えますと・・・  
里山からの恵みも  
享受しつつ、持続可  
能な活動を目指して  
いますので、皆様の  
参加、ヨロシクです  
(^-)-☆

## 次回活動日のお知らせ

日程：平成31年3月16日(土)

時間：午前8時30分 市役所正面駐車場の北側又は現地駐車場集合

内容：枯木焼却、シノブや雑草退治



## メンバー募集 キノコモクラブでは常時メンバーを募集しています。

公務員も仕事外の活動に参画し、地域おこしや社会貢献をどんどんやろうじゃないか。この想いを持つ全国の国・地方の公務員が全国で活躍しております。里山からの恵みを享受しながら、持続可能な活動を目指しています。特に、若くて体力のあるみなさまの積極的な参画をお待ちしております。興味のある方は、木津川市役所 マチオモイ部の武田までご連絡ヨロシク。